

技術情報

関係機関・団体の長
各病虫害防除員 } 殿
農業資材販売等関係者

福岡県病虫害防除所長

トビイロウンカ防除の徹底について

トビイロウンカの発生状況については、平成18年8月8日付で注意報を発表し、ほ場での発生状況確認と防除徹底を呼びかけたところです。8月下旬以降の発生は平年並で推移していますが、一部ほ場では発生量が多く、既に坪枯れが発生しているところもあります。また、8月30～31日の飛来虫に由来すると考えられる若齢幼虫の発生が確認され、発生予想パターン図による防除適期は9月15～20日頃と考えられます。発生状況はほ場毎に異なりますので、それぞれのほ場を巡回、発生状況をできるだけ広く調査し、防除対策に怠りのないようお願いします。

1 作物名 普通期水稻

2 病虫害名 トビイロウンカ

3 発生状況

9月13日現在、一部のほ場で坪枯れが発生。増殖率の高い短翅型雌成虫の発生が認められた。8月30,31日飛来虫に由来すると考えられる若齢幼虫が発生し始めている。

4 防除上注意すべき事項

(1) 発生状況は、ほ場毎に異なっている。防除がなされていないほ場や防除効果が不十分なほ場では、今後発生密度が高まる恐れがある。さらに、8月30,31日の飛来によりこれまで発生が少なかったほ場でも増殖する可能性がある(飛来後第一世代の幼虫の発生時期は、9月10日前後)。それぞれのほ場を見回り、発生状況を必ず確認する。

9月中旬の要防除水準は、払い落とし調査で10株当たりの成虫および老齢幼虫が50頭

これを超えるほ場は、坪枯れ発生のおそれがあるので、早急に必ず防除を行う。

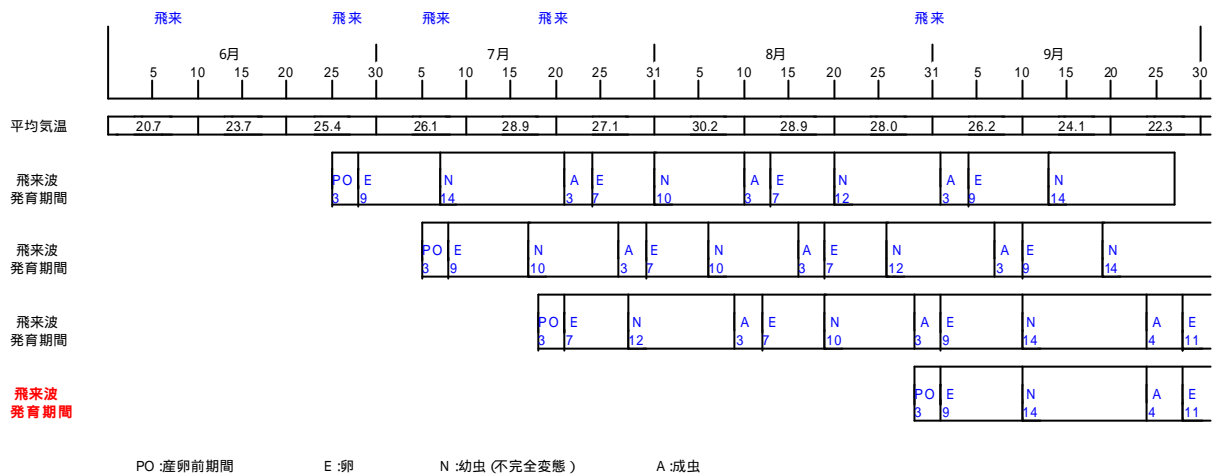
(2) 幼虫の齢期が進むに伴い吸汁量が多くなり、水稻への加害力は大きくなるため、特に中老齢幼虫の発生状況に注意する。

(3) 出穂後は、薬剤が株元へ到達しにくくなる。トビイロウンカの生息域である水

稲の株元に確実に薬剤が届くよう散布する。散布後は、必ず薬剤の効果を確認する。効果が認められない場合には追加防除を行う。

- (4) 防除の際は、農薬の適用作物、使用時期（収穫前日数）などの使用基準を遵守するとともに、飛散防止に努める。

平成18年度 飛来時期に基づくトビロウカ発生予想パターン図



平均気温は、福岡管区気象台福岡県農業気象速報の福岡観測所の数値。
平均気温は9月上旬まで本年の数値で、9月中旬以降は平年の数値。